

下工オープン戦レポート！

☆10月以降に実施した主なオープン戦(練習試合)の結果をご報告いたします。

10月16日(日) 対 光高校 戦 第一試合

～中国大会準優勝の光高校に対し奮闘！ ティフェンス面で収穫～

● 下松工 0-1 光

中国大会出場の強豪・光高校を相手に、僅差の試合でした。先発した末岡(1年)が、最速129km/hの直球、スライダーを軸に好投しました。初回エラーで1失点しましたが、強力光高打線に対し自責点0で完投。終盤は足をつりながらも、気迫で投げぬぎ、再三のピンチを何とか守り抜きました。しかし、光高の中国地区屈指の好右腕・升田投手に対し打線は沈黙。9回末岡の左前安打1本に抑え込まれました。強いチームからアップや試合前ノック、試合後の練習を含め勉強できました。やはり打撃が課題……。

尚、光高校は秋季中国大会で快進撃、見事な準優勝を果たされました。この度、練習試合をしていただいただけでなく、本校の選手と中学時代にチームメイト・ライバルだった選手も多いです。近隣公立校の快進撃に選手は多くの刺激を受け、奮起してくれることでしょう！！

(第二試合 ● 下松工 4-6 光)



10月17日(月) 対 周防大島高校 戦

～打撃復調のきっかけになるか 攻守両面でまざまざ～

【第一試合】○ 下松工 5-0 周防大島 【第二試合】● 下松工 3-4 周防大島

第一試合は、この秋から本格的に投手にも挑戦している村野(2年)が先発し、初の完封勝利をおさめました。直球、変化球ともに丁寧に低めをついて、安打を許すも散発に抑えました。打撃面も奥田(透)(1年)の適時安打をはじめ全6安打、四球もしっかり選び勝利しました。

第二試合は、濱中(1年)の右二塁打をはじめ8安打を放ちました。高校から野球をはじめた濱中では打撃・守備ともに成長著しい！他にも、打撃上向きの選手もでてきました！

課題としては、全選手共通で外角のボールに弱い…。外の球をセンターから二塁手(遊撃手)の頭に強く打球を出す練習をしていきたいと感じました。

10月23日(日) 対 徳山高専 戦

～真ん中から外の球をセンターから逆へ！ 徹底して試合にのぞむ～

【第一試合】○ 下松工 5-4 徳山高専 【第二試合】● 下松工 16-25 徳山高専

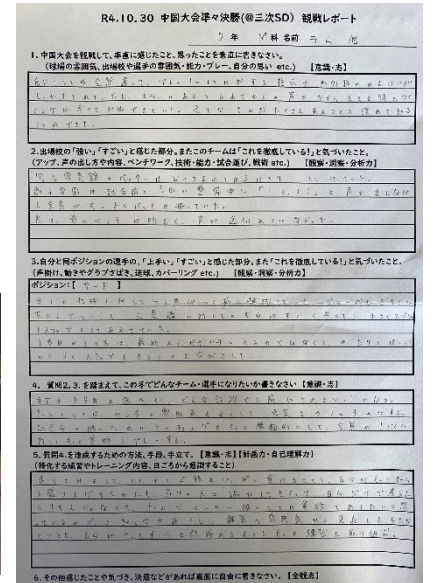
この日の試合は、前戦からの課題として「真ん中から外の球を張って、中から右へ強く！」を

徹底して試合に臨みました。その結果、複数の選手が「少し頭の意識を整理する」だけで打撃が変わってきました。中でも、大木(1年)は2試合で5安打を放ち存在感を示しました。これを確かなものにするためには、日ごろのフリーバッティングやティーから意識を変えていく必要性をチームで実感として認識しました。現在も意識した練習メニューを取り入れています。2試合目はディフェンスが崩壊……。まだまだ弱さと、球を受ける機会の少なさを実感しました。

徳山高専のグラウンドは本校から約6キロ。もちろんこの日の行き帰りは選手は RUN です。下半身の強化は待たなし！！

☆秋季中国大会の観戦に行きました！！

10月30日(日)、第139回秋季中国地区高等学校野球大会準々決勝の観戦に、三次きんさいスタジアム(広島)に行ってきました。グラウンドでボールを触る、トレーニングをする…決してこれだけが野球の練習ではありません。ハイレベルな試合・チームから学び刺激を受けること、強さの要因を見抜く洞察力を磨くことも練習です！選手はペンとメモ帳を手に、山口県勢2校の試合を観戦しました。特に、光高校が強豪私学・創志学園(岡山)を撃破した試合にはくぎ付けでした。帰宅後は、明日の自分たちに繋がるよう、学んだことを各選手がレポートにまとめました。「こんな素晴らしい舞台で躍動できるチーム、選手になりたい！」その思いを持ち続け、練習に打ち込んでくれるはずです。



☆今後の試合日程

今シーズンの残る練習試合の予定もわずかになってきました。実践からしか得られないことも多々あるので、来春に向け、毎試合課題を持って全力で戦おうと思います。

日付	対戦校	場所
11/6(日)	萩 10:00~	萩G
11/12(土)	②聖光・③光 12:00頃~	光G
11/13(日)	大島商船 10:00~	商船G

ぜひ、足をお運びください。尚、天候や感染症予防の観点から急遽予定の変更がある場合がございます。予めご了承ください。

※12日の②③は、3試合実施のうち、2試合目、3試合目の意味です。